

こころの病気（精神疾患・心身症）のある児童生徒の支援

—特別支援学校(知的)および小・中・高等学校等における「Co-MaMe」を活用した実践から—

企画者	五島 脩（独立行政法人国立特別支援教育総合研究所）
司会者	小西孝政（独立行政法人国立特別支援教育総合研究所） 五島 脩（独立行政法人国立特別支援教育総合研究所）
話題提供者	○土屋忠之（独立行政法人国立特別支援教育総合研究所） 大崎博史（独立行政法人国立特別支援教育総合研究所） 岡本真紀（香川県立香川丸亀養護学校） 中里早苗（埼玉県立けやき特別支援学校伊奈分校）
指定討論者	諏訪 肇（東京都立志村学園）

Key Words : 適応や行動面の困難 発達障害の二次障害 不登校経験

【企画趣旨】

全国病弱虚弱教育研究連盟が全国の病弱教育を実施している学校を対象に令和元年度に実施した病類調査において、児童生徒の病類で最も多いのは精神疾患及び心身症であることが示された。この病気のある児童生徒の中には発達障害の二次障害や、不登校等の適応面や行動面に困難のあるケースが含まれると考えられ、学校現場においては児童生徒の教育的ニーズの把握と、それに応じた支援が求められている。

このような背景のもと、国立特別支援教育総合研究所病弱班（以下、「本研究所（病弱班）」という。）では、精神疾患及び心身症のある児童生徒への支援ツールとして「連続性のある多相的多階層支援（Co-MaMe）」（以下、Co-MaMe という。）を提案した。

本シンポジウムでは、Co-MaMe についての概要や Co-MaMe セミナーでのアンケート結果の一部について報告するとともに、精神疾患及び心身症のある児童生徒が在籍する特別支援学校（知的障害）と小・中・高等学校で実践した Co-MaMe を活用した取組について報告する。また、取組の結果から得られた成果や課題をもとにさらなる活用の可能性等について討論を行う。

【話題提供者の趣旨】

話題提供①

「こころの病気（精神疾患・心身症）のある児童生徒の教育的支援「Co-MaMe」について」（国立特別支援教育総合研究所 主任研究員 土屋忠之）

病弱班では、2016 年より教員を対象にこころの病気のある児童生徒の教育的ニーズから具体的な取組の調査を行った。2019 年には、調査結果を整理・分析することから新たな支援・配慮の方法である「多相的多階層支援」（以下、Co-MaMe）を開発した。Co-MaMe は教育的ニーズ 40 項目により児童生徒のアセスメントを行い、児童生徒の状態である 3 つの段階（受容期、試行期、安定期）から支援・配慮を検討する方法である。また、学校現場にて Co-MaMe を使って支援・配慮を検討しやすいように、アセスメントシートと支援・配慮のイメージ図の作成を行った。ここでは Co-MaMe の概要について述べる。

話題提供②

「小・中学校等における Co-MaMe を活用した支援の在り方に関する展望～Co-MaMe セミナー後のアンケート結果から～」
（国立特別支援教育総合研究所 総括研究員 大崎博史）

令和 2 年度に実施した 2 回の Co-MaMe セミナー参加者へのアンケート調査の結果から、「Co-MaMe による支援や配慮の対象として参加者が取り上げた児童生徒の実態」「参加者がアセスメントシートで優先的に取り組む課題として取り上げたカテゴリーと項目」「Co-MaMe を活用した支援を行うことが可能であると考えられる児童生徒の疾病等の状態」「Co-MaMe を活用した支援を行うことの利点や課題」等についての話題提供を行い、今後の小・中学校等における Co-MaMe を活用した支援の在り方について展望する。

話題提供③

「特別支援学校（知的障害）における言動や行動に課題のある生徒への Co-MaMe を活用した指導・支援」（香川県立香川丸亀養護学校 教諭 岡本 真紀）

香川県立香川丸亀養護学校に在籍する、言動や行動に課題のある A 生徒に対して、Co-MaMe のアセスメントシートや整理シートを活用し、指導者 10 名で具体的な指導や支援の方針を考えながら、実際の指導や支援を行った取組について話題提供する。また、特別支援学校（知的障害）において Co-MaMe を活用した支援を行うことの意義等についても述べる。

話題提供④

「特別支援学校（病弱）のセンター的機能を生かした小・中・高等学校への支援」（埼玉県立けやき特別支援学校伊奈分校 教諭 中里 早苗）

埼玉県立けやき特別支援学校伊奈分校は、県立精神医療センター児童思春期病棟内にある県内唯一の分校として、全県の小中高等学校等を対象に地域支援を行っている。その経験をもとに、特別支援教育コーディネーターの立場から、小・中・高等学校でのこころの病気のある児童生徒への支援の実際や、Co-MaMe を活用した支援についての実践を発表する。

【指定討論者の趣旨】

東京都立志村学園統括校長 諏訪 肇

精神疾患及び心身症のある児童生徒への支援・配慮を行ううえで、Co-MaMe を活用の効果や利点について特別支援学校（知的障害）や小・中学校等での取組を通して討議する。また、Co-MaMe のさらなる活用に向けた方策や課題について討議を行う。

(GOSHIMA Osamu, KONISHI Takamasa, TSUCHIYA Tadayuki,
OSAKI Hirofumi, OKAMOTO Maki, NAKAZATO Sanae, SUWA Hajime)